

一斉休校に夏休みの短縮、大切な集大成の大会がいくつも中止となり、授業はオンラインになって……。子どもたちの日々や目指してきたことを一変させてしまったコロナ対策。10代の人たちは、そんな世の中をよく見て、じっくり考えています。

「つらい、目標が持てない、イライラする、そう感じているのは君だけではない」。名古屋市立桜田中学校の社会科教師、原雅和さんは4月下旬、2年生の自宅学習プリントにそう書き、課題を出しました。プリントには、作家・あさのあつこさんのメッセージ（3月22日付フ

ォーラム面）など、新型コロナウイルスに関する3本の新聞記事を添え、感想や意見を書く課題でした。コロナ禍は、世界も日本も、大人にも子どもにも降りかかっている問題。休校前の最後の授業で原さんは「よく見ておくと勉強になるよ」と生徒に伝えました。あさのさんのメ

ッセージに「大人の言葉うのみにせず、考えてみて」「一人ひとりの身に降りかかったことを覚えておいてほしい」とあり、胸を打たれると同時に、タイムリーな話題としてプリントで取り上げることにしました。記事を読み、感想を紙に書く。オンラインを使った遠隔授業でも動画

配信でもない「アナログ」な課題。それでも良かったと原さんは感じました。生徒から返ってきたレポートには、自分や社会を深く、客観的に見つめた文章が、思いのほか多かったからです。社会科が苦手な生徒も、一生懸命考えて書いている様子がうかがえました。（花野雄太）

あさのあつこさん記事に中学生 確かにチャンス■差別くだらない

あさのあつこさんが桜田中2年生のレポートの一部を読み、メッセージをくださいました。生徒5人の文章（抜粋）とともに紹介します。

●横井陽路さん 今トイレットパーやマスクの買い占め行為や、マスクが買えずに街を歩く人を「非常識」という人が増えています。人間が人間との関係を悪くして、これがあさのさんのいう人間の弱点や短所だと思いました。

●平田遼太朗さん 僕は大人の言うことが全て正しくて完璧だと思っていた。しかし本当は間違いや失敗することもある。だから人に言われたことをうのみにするのはなく、自分で考え行動しようと思いました。

●鈴木詩織さん 私はあさのさんの「主体的にこの時期を生きてほしい」という言葉が心に刺さりました。主体的という言葉がわからなくて調べてみると、自分の意思、判断で行動すること、自主的、と書いてあ

り、（あさのさんの）「大人の言葉うのみにせず考えてみて」という言葉の意味がわかりました。私は学校に行かなくちゃいけないと思っていました。でも、私はこれから新しいことを学ぶために学校に行きたいと思うようになりました。

●国井佑斗さん 僕は改めて思ったことが三つあります。一つ目は、新型コロナウイルスはいつどこで起きているのか予測が付きにくいことです。一人一人の行動が肝心だと思いました。

二つ目は普段行っていることができないという恐ろしさです。卒業式がなくなったり、行事が延期になったり、大きく考えると国の経済が安定しないなど、とても重要なことが制限されてしまいます。普段やって

いることを続けられる重みは大きいと感じました。

そして三つ目は、大人の言葉にとらわれないことです。情報は正しいか、正しくないかをよく見分ける必要があると思います。

●成田沙穂さん あさのさんの言うとおり、個人の事情ではなく、国や社会の事情が変わると、いろんな人が困ったり、経済が変わったりしてしまうことに気づきました。誰だって不安なのは一緒で、それは気持ちが冷静ではないからだと思います。

毎日の出来事から世の中は変わっていく。だから、自分が思ったことを大人たちに話したりすることで、騒動や危機を起こさない、世の中を変える力になると思います。ささいなことでも、自分たちは何をしたいのか、どうすればいいのかなど、いろいろなことを思い、ちゃんと検証することが大事と知りました。

自分を掘り下げる力、さすが

あさのあつこさんより
生徒さんのレポートを読ませていただきました。便宜上、5作を選ばせていただきましたが、レポート一つ一つにわたし自身が強く心を動かされ、励まされました。子どもたちの底力、たいしたものだと感嘆しています。桜田中学校のみんな、いえ、この国で「子どもたち」と括られる若いみなさん、緊急事態宣言が解除された、今、どんな風に生きていますか。暮らしていますか。レポートの中で特に心に残ったのは、「自分」について深く思考しようとする生徒さんたちの姿でした。未曾有の事態の中、自分と他者、学校、学習、社会、国、家族、正義、常識、日常そして命。「自分」を核として思考を深めてい

く文章は、まっすぐに心に刺さってきました。むろん表現は稚拙な部分も言葉足らずな面もありました。けれど、そんなことはどうでもいいのです。自分で思考し、想い、自分で言葉を紡ぎ伝えようとする。レポートに顕著だったその姿勢こそが、これから先未来と呼ばれる時代に何より大切なもの。それをわたしは、みんなから教わりました。この数カ月で、社会のありようも、人との関わり方も、経済の流れも、人の心の形も、あらゆるものが変化を余儀なくされました。その中で、わたしは、わたしを含めた大人たちの言葉の空虚さ、軽さに虚然とさせられたものです。自分の言葉で自分の想いを語る大人たちが、ど

れくらいいたでしょうか。みんなの言葉からは生の人間が伝わってきました。「主体的」の意味を調べた人、「当たり前」の日常について初めて考えた人、同じ禍を繰り返さない未来を誓った人。誰もが、自分の頭と心から生み出した言葉をつづってくれました。これは力です。この苦しい数カ月が、みんなの力を育んだとしたら、力を生み出したとしたら、自棄と呼ばれる日々は決して無駄でも無為でもなかったのです。それを教えてくれて、ありがとうございます。とても励まされました。最後になりましたが、みんなの周りには本物の言葉を使える大人たちが必ずいます。有名でも偉い人でもないかもしれませんが、必死に働き、社会を支え、守っている人たちです。その声こそがみんなの糧になる。どうか聞くべきものを聞いてください。

行事どうする 私たちも意見

学校は再開しても、人が集まって体を動かす運動会などはどうするか。難しい問題です。生徒と教員が話し合いを始めた学校もあります。玄界灘に面した福岡県新宮町にある新宮東中学校で14日、オンラインの会議がありました。参加したのは、学年総割り3ブロックで競う体育会で、リーダーを務めるはずだった3年生9人。折居邦成校長が「本当なら来週が体育会。共につくりあげることを大事にしてきた。素直な意見を聴かせて」と呼びかけると、次々と手が挙がりました。「最後だから、やりたい」。思いは共通です。でも「3密」がよくないことも分かっています。「ムカデ競走や大縄跳びとか、密集密接する競技はやめる」「保護者はなしにして、録画して配る」「リアルタイムで配信し

たら」「生徒の待機用テントを隣の施設のグラウンドに立てれば間隔が空く」。次々にアイデアが出ました。「やりたいけど、命の危険があるから延期か中止して、秋にコロナが収まったらやる方がいい」と言う生徒もいました。「2学期は砂の芸術（砂像コンテスト）も合唱コンクールもある。受験勉強もあるのに、三大大行事三つは難しい」という意見も。40分ほど意見を交わし、会議は終了。生徒会長の宮本姫佳さん(14)は「もし中止になっても、勝手に決められたんじゃないって話した結果なら、納得できる。意見を聞いてくれてうれしい」と話しました。会議のきっかけは、リーダー役の一人の井上航さん(14)が4月下旬、学校に送ったメールでした。「3年生は中学校生活最後の三大大行事を成



功させたいという思いが非常に強い」「生徒の意見も尊重しつつ判断をしてくだされば幸いです」と丁寧に話した。折居校長は「どうすれば実施できるのか、一緒に考えたい」。検討を始めています。（渡辺純子）

体育会をどうするか、オンラインで話し合う新宮東中の生徒たちと先生。15日には新宮東中の合同リーダー会議があり、さくら色なアイデアが出た（画像の一部を加工しています）

予測不能な未来 必要な力は

東京都の私立新渡戸文化中学・高校では、生徒たちへ一方的に課題を出さずにオンライン授業を進めました。「コロナ禍で予測不可能な将来に直面した今、生徒自身に『必要な力とは何か』を考えてほしい」と生物教師の山藤旅聞さん(40)。中学では、オンラインでみんなをつないで「おしゃべり」することから始めました。テーマは次第に広がり、「家にある大切な物」から「未来の〇〇を語る」「未来を生きる力」へ。普段はあまり会えないスポーツ選手や企業人、海外在住の大人たちともネットで語り合いました。「コロナについて勉強したい」という声があがった高校。京都大の山中伸弥教授のホームページやニュースサイトを見て学び、「大切なこと」「伝えたいと思ったこと」をチャットで共有。文章やイラストなどの作品に表現しました。（藤田さつき）

対話って面白い
■もしもゴールがあったとして、そこにたどり着く方法は一つではないんだなと思いました。いろんな経験を積みたと思います。私が、気付かなかったところに大人の方々の視点があって、対話って面白い。同時にみんなに会えないのが寂しく感じました。でも、このオンラインでたくさんたくさん、話したい。（中3）
■学校に行けない人がいること、ご飯を毎日食べられない人がいること、そういうことを聞いたことはあります。そのとき自分は幸せなんだなと思ったこともありましたが、実際に今までの暮らしがなくなって、私って全くわかっていなくなっただけじゃありません。もっと世界に目を向けられるといいなと感じています。（中1）



写真は新渡戸文化中学・高校の生徒の作品から

コロナ 10代が考えること
今この時の言葉から

学校から連絡を待つだけの状態が続いていて、ずっとヒマ。宿題をやったり、次にTikTokで何撮ろうとか考えてる。外に出られるようになったらバイトするのが楽しみなな

今夏の全国高校野球選手権大会中止を伝えられて仲間がいなくなるわけじゃない。やってきたことは無駄じゃないはず

志学館高校の村石太陽主将、21H千葉版

東京芸術大学で先端芸術表現を学ぶ RYO OGATAさん

大阪府の高校1年生 あやかさん

コロナ自粛中に#似顔絵100人チャレンジすることにしました。大学に入学してから一度も学校で講義を受けることなく5月になってしまったので、SNSで顔写真を募集し、描かせてもらっています